

特集

さまざまな個性がつながる

共に生き、生き、過ごせる社会に向けて

多様な個性が集まる成田

令和5年1月1日現在の本市の人口は13万944人で、このうち4人に1人は65歳以上の高齢者、8人に1人は14歳以下の子どもです。そして、20人に1人は外国人が住んでいて、これは国や県と比較しても高い割合です(左図)。また、障がい者手帳を持っている人は延べ5、701人いるなど、さまざまな人が暮らしていることが分かります。

そのほかにも、成田山新勝寺をはじめとする観光スポットや、「日本の空の玄関口」成田空港がある本市には、一年を通して国内外からたくさんの方が訪れます。

注目すべきは、その一人一人が身体的特徴や生活環境、文化、思想など、それぞれの個性を持っているということ。

こうした多様な人たちが存在する中で、誰もが生き生きと暮らすために「共生社会」という考え方があり、取り組みが盛んになっています。



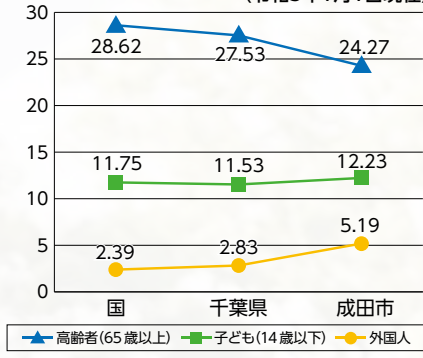
「普通」を見直す

自分にとって「普通」や「当たり前」だと感じるのが、周囲の人にとっても同じとは限りません。例えば、道を聞かれた時。無意識に最短距離を案内するところがあると思います。でも、相手が車いすに乗った人だったらどうでしょう。道中に段差や急な坂があるとかえって時間がかかってしまう場合があります。

このように、自分にとっての普通が、ほかの人にとっての普通ではないことに気が付くためには、自分と違う立場の人がいることを認識することが大切です。

今回の特集では、さまざまな個性が集まる成田において、一人一人ができることを見つけ、行動することの大切さについて、皆さんと一緒に考えたいと思います。

図 人口に占める外国人・高齢者・子どもの割合
割合(%) (令和5年1月1日現在)



(出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」





第1章

共生社会って何？

共生社会とは

障がいの有無や国籍、性別、年齢などにかかわらず、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会を「共生社会」といいます。

多目的トイレや手すりの設置、看板の多言語表記といった物理的な整備のほか、パラスポーツ（障がい者スポーツ）などを通じた障がいに対する偏見や差別の解消といった心のバリアフリーも、共生社会に欠かすことはできません。

大切なのは「思いやりの心」

全ての人が分け隔てなく、笑顔でいられる社会はすてきだと思いますか。こうした共生社会を実現するためには「思いやりの心」が大切です。

そのためのポイントは相手の立場になって考えること。歩いている時に歩道にはみ出して止められた自転車とぶつかりそうになったことはありませんか。海外旅行に行った時に現地の言葉が分からなくて困ったことはありませんか。これらは、自転車を止める時は十分な通路を確保する、困った様子の外国人を見かけた時は簡単な単語を

使って声を掛けるなど、相手のことを思いやる気持ちにより解消できるかもしれません。

「他人ごと」から「自分ごと」に意識を置き換えてみると、新たな発見があるでしょう。

成田市の取り組みと実績

本市は、国際空港がある立地を生かし、米国とアイルランドを対象国とした、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンに登録しました。また、アイルランド・パラリンピックチームの選手たちを迎えることをきっかけに、県内で初めての共生社会ホストタウンとして登録。継続的な友好と共生社会の実現への思いを込めて、共生社会推進テーマ曲「PARA Beats!」を制作しました。

そして、東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて訪れる、さまざまな個性を持った観光客を受け入れるにあたり、都市ボランティアの育成を行ったり、宿泊施設が実施するバリアフリー化改修工事に対して補助金制度を創設したりするなど、産学官民が一体となって共生社会の推進に取り組んできました。

イベントを通じて多様な人たちが一体に

皆さんにとっての「共生社会」とは？

8月19日に重兵衛スポーツフィールド中台体育館で開催された「共生社会ウィークメインイベント」。参加者の皆さんに「あなたが描く共生社会」について考えてもらいました。

相手を尊重しながら支える

小学生の時に授業で共生社会について勉強したことがあります。相手が困っていそうに見えても、自分で「やろう」「やりたい」と思っていることがあるかもしれません。全てを手伝ってあげるのではなく、助けになれることを聞いて支えるのが良いと思います。



はまだ まゆ
濱田 茉祐さん

共に生きる社会

手話サークルに所属していて、メンバーの誘いでこのイベントに参加しました。共生社会という言葉聞いたのは初めてですが、文字の通り、障がいの有無だけでなく、外国人や老若男女が一体的に助け合いながら過ごしているのが理想だと思います。



おかざき じゅんいち
岡崎 純一さん

「特別」から「当たり前」に

このイベントで共生社会という取り組みを知りました。障がいのある子どもを車いすに乗せたまま会場に入ることができたので、家族みんなで参加できてありがたいです。これがどのイベントや施設でも当たり前になってほしいと思います。



おおくぼ えり
大久保 英里さん

成田市の共生社会の歩み



障がいのある子どもたちの和太鼓衆「不動」も参加して PARA Beats! を演奏



オール成田でアイルランドパラリンピックチームを歓迎



誰もが気軽にパラスポーツを体験できるように



スポーツを通じた共生社会の実現に向けた取り組みが評価される



歌詞が付いたことで、より親しみのある曲に

平成30年	
8月	米国とアイルランドを対象国として、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンに登録
10～11月	アイルランドパラリンピック水泳チームが本市を拠点にキャンプを実施
令和元年	
7月	「成田市宿泊施設バリアフリー化改修補助金」を創設
8月	アイルランドを対象国として、県内で初めて共生社会ホストタウンに登録
令和3年	
2月	共生社会応援イベント「PARA Beats! 勇気を奏しよう。A celebration for para athletes.」を開催し、共生社会推進テーマ曲「PARA Beats!」を初披露…①
8月	東京パラリンピックに出場するため、アイルランドチームが重兵衛スポーツフィールド中台で事前キャンプを実施。歓迎セレモニーで、公津の杜中学校吹奏楽部によるテーマ曲「PARA Beats!」の演奏などで激励…②
11月	共生社会応援イベント「PARA Beats! from Narita 共生社会を奏しよう。」を開催し、アイルランドパラリンピック委員会と「東京パラリンピック競技大会レガシー協定書」を締結
令和4年	
8月	8月18日～24日を「共生社会ウィーク」と命名するとともに、スポーツを通じて共生社会に対する理解を深める期間と位置付け、パラスポーツ体験型イベントなどを開催…③
令和5年	
3月	「スポーツ・フォー・トゥモロー・カンファレンス」において、国際交流・協力の分野で貢献している事例として、共生社会推進プロジェクト「PARA Beats!」がスポーツ庁長官表彰を自治体単独で初めて受賞…④
8月	テーマ曲に歌詞を付けた「PARA Beats! ～羽ばたこう! 成りたい私へ～」を制作し、作詞者の一人・神戸薫子さんと公津の杜中学校吹奏楽部による合唱を初披露…⑤

当日の様子を動画でご覧ください





第2章

身の回りにあふれる 共生社会

市内では、あらゆる場所・場面で共生社会の推進につながる取り組みが行われています。本章では、それぞれの立場で共生社会について考え、行動している人たちを紹介します。



／ 適材適所で一人一人が輝く ／

社会の役に立つ仕事がしたいという気持ちに障がいの有無は関係ありません。得意分野を生かしたり、作業を細かく分担したりすることで、障がいのある人の就労を支援している人がいます。



納品前に仕上がりを確認



集中して作業に向き合う

どうすればできるかも考える

地域の現場で障がいのある人を支えたり、一緒に活動したりしたいという思いで、就労継続支援B型事業の職業指導員を担当しています。私たちの事業所は、主に知的障がいのある人たちが利用していて、施設内作業所での軽作業や、地域の清掃活動などを行っています。

作業内容は、事前に本人と相談して希望を聞いた上で、やる気や適性を踏まえて決定します。時には、作業を細かく分けることで、その人が安全・効率的に作業できる環境を整えるなど、どうすればできるようになるかを常に考えています。変化に過敏な場合が多い自閉症の人の対

応では、その日のスケジュールを事前に共有することで、次に何をするのか分からないという不安感を取り除くように心掛けています。

アドバイスをした時に、生き生きとした表情で作業を進める姿が見られると、こちらまで明るい気持ちになります。さらに、企業や自治体から依頼を受ける作業は納期があるので気を使いますが、成果品を納品するたびに達成感を感じます。障がいの有無はその人の個性の一つであるということを尊重し、社会を構成する一員として活躍する姿をこれからも支えていきたいと思っています。

就労継続支援B型事業とは

障がいや年齢などの理由で、雇用契約を結んで働くことが困難な人が、就労の機会を得たり、就労に向けて必要な訓練を受けたりすることのできる障がい福祉サービスの一つです。

希望する世帯へ「広報なりた」を定期送付する際の宛名シールの貼り付けや封詰め作業は、市内3カ所の就労継続支援B型事業所で行っています。



コミュニケーションを取りながら



成田のぞみの園
職業指導員
おおしま たくや
大島 卓也さん

できる仕事が増える喜び

就労継続支援B型事業の利用を始めて21年目になりました。現在は、週5日利用していて、チラシの折り込みや仕分け、プリントされたTシャツなどの梱包こんぱう、ヘルメット用の緩衝部材の両面テープ貼りといった作業を担当しています。

新しい作業を任されて、少しずつできる仕事が増えていくとうれしさを感じます。作業中は職業指導員がアドバイスをくれたり、困ったことがあっても聞けば優しく教えてくれたりするので、安心して作業に集中できています。ほかにも、定期的開催される自由参加のレクリエーションは、ほかの利用者や職業指導員と交流できる楽しみな時間です。

仕事を依頼してくれる人たちの期待に応えるため、強みである集中力と継続力を生かしながら、これからも一生懸命働いていきたいと思っています。



成田のぞみの園
利用者
あきやま さとみ
秋山 聡美さん

＼ハッピーにつながる“おもてなし”／

旅行・仕事・学業など、さまざまな理由で本市を訪れる外国人。成田の魅力伝えたい、充実した時間を過ごしてもらいたいというボランティア精神で相手の気持ちをくみ取るプロフェッショナルがいます。



訪れた人に寄り添って



迫力のある大本堂を紹介

成田ボランティアガイドの会とは

国内外から訪れる参詣客に対して、成田市や日本の魅力を伝えるため、成田山新勝寺や宗吾霊堂などを無料で案内しています。

日時＝毎日(毎月25日を除く) 午前10時～午後3時

受付場所＝成田山新勝寺大本堂前にある受付所

利用方法＝予約不要(団体の場合は事前に予約してください)

※くわしくは同会(☎22-2111(内線541))へ。



外国人観光客

事前に時間の目安を聞いてもらい、それに合わせた内容で案内をしてもらえたので、効率よく充実した時間が過ごせました。この細やかな気配りは日本人ならではのと感じたし、何度来ても新しい発見がある成田は魅力的だと思います。今回は、今日回れなかった場所を案内してもらいたいです。

退職をきっかけに、米国で働いていた経験や、そこで培った語学力などを生かしながら人を支える活動がしたいと考え、成田山新勝寺を訪れた人にボランティアで案内を行っています。

案内する時間や場所は相手の希望を聞いて対応しています。また、一目で魅力が分かるものが好きな外国人が多いです。大本堂はもちろんのこと、きらびやかに装飾された三重塔や、大きくて色鮮やかな平和大塔は国籍や宗派を問わず好評です。そのようなポイントを意識して、相手の反応を見ながら案内しています。こうした満足してもらいたいという「おも

てなし」の気持ちは日本の文化であり、共生社会につながる考えの一つだと思います。

案内を終えた後に「初めて知ることがありで、話を聞いていて楽しかった」「あなたの案内を聞かずに帰らなくて良かった」といった感想を言ってもらえた時は、やりがいを感じます。国際空港のある成田は、多くの外国人にとって日本で最初に訪れる地であり、最後に訪れる地なので旅の印象に大きな影響を与える場所です。これからも「おもてなし」の心を大切にしながら成田の魅力伝えていきたいと思えます。



身ぶり手ぶりを使いながら



成田ボランティアガイドの会
かみかわ かつみ
上川 克巳さん

細やかな気配りのおかげで充実した観光に

私たちはニュージージーランドの航空会社で客室乗務員として働いています。次のフライトまで、短い時間ですが日本に滞在できるので、成田山新勝寺やその周辺を度々訪れています。

普段は観光スポットで写真を撮って過ごすことが多いですが、今回は歴史的な背景や特徴について説明を聞くことができたので、これまでとは違う景色に見えました。

性別にとらわれない心のバリアフリー

「男だから」「女だから」と決めつけていることはありませんか。固定観念にとらわれず、「得意」を生かした活動で地域貢献を行っている人がいます。



AEDの使い方を説明



目を合わせて準備完了の合図

地域のために力になりたい

身近な地域の役に立ちたいという思いがあり、大学の先輩に誘われたことがきっかけで成田市消防団女性部に入団しました。女性部の活動では、主に小中学校などで普通救命講習の講師を勤めているほか、火災予防の啓発、イベントでの来場者の誘導や献血の呼びかけなどを行っています。

大学やサークルで医療について学んでいるため、医療・救急救命に関する知識が普通救命講習などの活動に生かすことができています。また、このような活動の場があることは、学業に対するモチベーションの向上にもつながっています。

「消防団」と聞くと、災害現場で体力を必要とする活動も多いことから、男性の団員をイメージする人が多いのではないのでしょうか。成田市消防団も、これまでは男性ばかりで構成されていましたが、現在は、性別を問わず活躍の場が広がっています。

活動を通して出会う人たちと交流したり、応援の声を掛けてもらったりすると、女性部が活動する意義を実感し、やりがいを感じます。「地域のために」という同じ気持ちを持った団員たちと共に、これからも活動を続けていきたいと思っています。

成田市消防団女性部とは

女性の力を地域の消防力や防災力に活用するため、平成29年4月に発足し、6年目を迎えました。

現在は、国際医療福祉大学の医学部生や会社員など計31人が所属。火災予防運動や啓発イベントなどで、地域防災におけるリーダーとして活動しています。



消防出初式で行進



成田市消防団女性部
(国際医療福祉大学 医学部医学科3年生)
まつおか さあや
松岡 沙耶さん

女性部の活動で 地域防災力をより強く

女性部を配置している消防団はほかにもありますが、成田市の特長は、国際医療福祉大学に通う医学部生が毎年入団してくれていることです。豊富な医療・救急救命に関する知識が団員同士で共有できるほか、普通救命講習などで多くの市民に対して直接指導できることは、自助・共助のための重要な備えにつながっています。

大規模災害が発生すると、避難所で人手が不足する状況が出てくるかもしれません。そのような時に備えて、避難誘導や応急手当など、女性部の避難所対応への関わり方を新たに検討しています。避難所においても多様性への配慮が求められる中で、女性部が運営に携わること、避難する女性にとつての安心感にもつながるでしょう。今後さらなる活躍が期待できる女性部の存在は、私たちにとつても心強いです。



成田市消防総務課
たかはし かずや
高橋 和也さん

一緒に学ぶ～支え合いへの第一歩～

周囲の人が困っている時に、私たちはどのようなことができるでしょうか。まずは気づき、行動することが大切です。ここでは、成田空港で働くスタッフが実際に対応した事例を通して、皆さんが「気が付く・行動する」ためのポイントを紹介します。

もしかして困っている?

1



勤務を終えて空港内を歩いていたところ、白杖(目の不自由な人が使う白いつえ)を持って立ち尽くす利用客が目にとまりました。

ポイント…気づき

高齢者が立ち止まっている、子どもが1人で歩いている、同じ場所を行ったり来たりしているなど、困っている人が発するサインを見落とさないようにしましょう。

ポイント…行動

「困っていることはありますか」など、手助けが必要か勇気を出して聞いてみましょう。

声掛け

2



周囲につき添っている人が見当たらなかったため、何か手伝えることがあればと思い、声を掛けた。

4

状況を見て危険回避



白杖を使用しながら料理を席まで運ぶのは危険だと思い、飲食店のスタッフへ料理ができたなら席まで運んでもらえるよう協力を依頼。

ポイント…連携

支援する際は、全てを自分一人で行う必要はありません。必要な時は、周りの人にも支援を呼びかけるなど、連携しながら対応しましょう。

3

要望を聞き取り・案内



飛行機に搭乗する前に食事を取りたいという要望があったため、フードコートで希望する飲食店付近の席に案内。

豆知識

知っているとならば支えになれるピクトグラム

支援を必要とする場合のある人が身に付けるマークの一例を紹介します。このようなマークを見かけた時は、配慮をお願いします。

- ヘルプマーク…身体障がいのほか、見た目に分かりづらい精神・知的障がいのある人などが身に付けています
- マタニティマーク…妊産婦が公共交通機関を利用する時などに身に付けています



上谷さんの対応がCS Awardを受賞

CS Awardとは、空港関連企業で構成された成田空港CS協議会が、空港利用客に対して期待以上のサービスを提供したスタッフを表彰する制度です。



表彰状を授与

今回紹介した事例は「CS Award 2023 Spring」を受賞しました。



㈱NAAリテイリング
うえたに まさこ
上谷 昌子さん

インタビュー

声を掛ける時はいつも笑顔で

誰かを支援する時は、まず相手に安心感と信頼感を持ってもらうことが大切です。そのために笑顔で声を掛けるようにしています。笑顔でいると自然に声色も明るくなるため、たとえ視覚に障がいのある人が相手でも、心地よく感じてもらえると思います。そして、相手に何をしたいかではなく、相手は何を求めているのかを考えるとスムーズな行動につながります。

もし支援を断られても残念に思う必要はありません。その時は支援を必要としていなかったかもしれませんが、声を掛ける勇気は相手に伝わり、きっと人を支える力になっているはずですよ。

人ならではの感情を大切に

支援に携わった時だけでなく、日常生活でも「ありがとう」という言葉を聞くとうれしい気持ちになりますよね。施設のバリアフリー化などのハード面は整備に時間がかかりますが、自分の意識を変えることはすぐに始められます。また、AIなどの技術は進歩していますが、言葉をかけるだけでなく、表情や感情でコミュニケーションを取ることができるのは人ならではの強みだと思います。これからも人格や個性を尊重する気持ちを大切にして、互いに認め合い、支え合っていきたいです。

無事に空の旅へ

7



その後、航空会社のスタッフと合流した利用客は、無事に搭乗手続きを済ませた。

6

関係者に相談



「航空会社のスタッフとの待ち合わせ時間に間に合わないかもしれない」との相談があったため、利用客が食事を取っている間に航空会社のチェックインカウンターへ行き、事情を説明。フードコートで席まで迎えに行ってもらえるよう協力を依頼した。

この後の予定を確認

5



席に着いたことを見届けて一度はその場を離れたが、「飛行機の搭乗手続きはできるのか」と気になったため、席に戻り「ほかにお手伝いできることはありますか」と尋ねた。

成田は日本の共生社会をリードできる

認知度は高まってきている

東京オリンピック・パラリンピックの基本コンセプトの一つとして「多様性と調和」を掲げたことなどが影響し、共生社会に対する社会の認知度や理解度は高まってきたと感じています。

共生社会というと、日本では、障がいのある人との共生をイメージする人が多いかもしれませんが、一方で、移民を受け入れることが多い海外では、多文化共生の意味合いが強くなります。また、福祉の分野では、高齢者や子どもを地域で支援する地域共生といった言葉が使われるなど、一口に「共生社会」といっても、多面的に取り組むべきテーマだと考えられます。

例えるならばフルーツポンチ

共生社会について考える時にイメージしてもらいたいのは、それぞれの個性を生かし合うという意味で、ミックスジュースではなく、フルーツポンチのような社会です。まぜ合わせた状態という点はどこも同じですが、個性を擦りつぶすのではなく、違いを認めて一緒に過ごすことが共生社会の実現につながっていくでしょう。

「PARA Beasts」に込めた思い

成田市がアイルランドパラリンピック委員会

と協働で制作した、共生社会推進テーマ曲「PARA Beasts」に歌詞が付きました。

私も作詞者の一人として参加し、誰もが歌いやすい歌詞にすることで、共生社会を身近に感じてもらえるように心掛けました。また、多様な選択ができる社会の中で、明るい未来に向かって進んでほしいという気持ちをこめています。今後、学校やイベントなどで市民の皆さんが口ずさむような歌になってほしいと思います。そして、共生社会に触れた経験のある子どもたちが大人になれば、次第に共生社会に対する理解が広がっていくのではないのでしょうか。

成田ならではの強みを生かして

共生社会ウィークの企画やテーマ曲の作曲・作詞など、成田市の取り組みは前向きで先進的だと感じています。また、成田空港があり、周辺にたくさん宿泊施設やスポーツ施設があることで、国際的なパラスポーツ大会の誘致やホストタウン交流事業を実施しやすい環境が整っています。このような環境を生かして共生社会と向き合うことのできる点は、成田市の強みだと言えるでしょう。成田市は、多くの外国人にとって日本の玄関であり、国内外に対して与える影響も大きいと思います。これからも日本の共生社会を先導していくような活躍を期待しています。



成田市の取り組みについて意見を交わす

日本パラリンピック委員会
委員長

かわい じゅんいち
河合 純一さん

生まれつき左目の視力がなく、少しだけ見えていた右目も15歳の時に視力を失って全盲になる。17歳の時、水泳で1992年バルセロナ大会に初出場すると、以降6大会連続でパラリンピックに出場し、合計21個のメダルを獲得。2020年からは日本パラリンピック委員会の委員長に就任し、東京パラリンピック大会では日本代表選手団の団長も務めた。これまで成田市の共生社会の取り組みに携わり、「共生社会ウィーク」の創設などについて提言を行ってきた。





特集の終わりに

共生社会について知ることによって気が生まれ、気が付くことで行動につながり、行動することで支え合いになる。さまざまな人にとって成田が過ごしやすいまちになってほしいという思いを込めて「共生社会」をテーマに取り上げました。

今回の取材を通して特に印象に残っているのは、声を掛ける勇氣そのものが人を支える力になっているという考え方。私自身のように、失敗を恐れて行動に移せない人の背中を押してくれたように感じました。支えになりたいという気持ちですが、一人ではないという安心感として相手に伝わっていると思うと、ためらわずに行動できそうです。

共生社会は誰か一人の力だけで実現できるものではありません。知り・気が付き・行動することによって、「共に生き生き過ごせる社会」を皆さんと一緒に作りあげていきましょう。この特集がきっかけとなり、生活の中で「共生社会」という考え方が根付いていくことを願っています。

